

京都文教大学人間学研究所・立命館大学大学院先端総合学術研究科・
宇治市源氏物語ミュージアム共催

特別公開講演会

「源氏物語の匂いと薫り」

Bonne Odeur / Mauvaise Odeur au Temps du Dit du Genji

開催日：2007年1月27日（土）

会場：宇治市源氏物語ミュージアム 講座室

京楽 真帆子¹⁾ 「平安京の都市文化とにおい」

アラン・コルバン²⁾ 「異なかおり Parfums Exotiques」

コメント：金 基淑（京都文教大学人間学部文化人類学科教授）

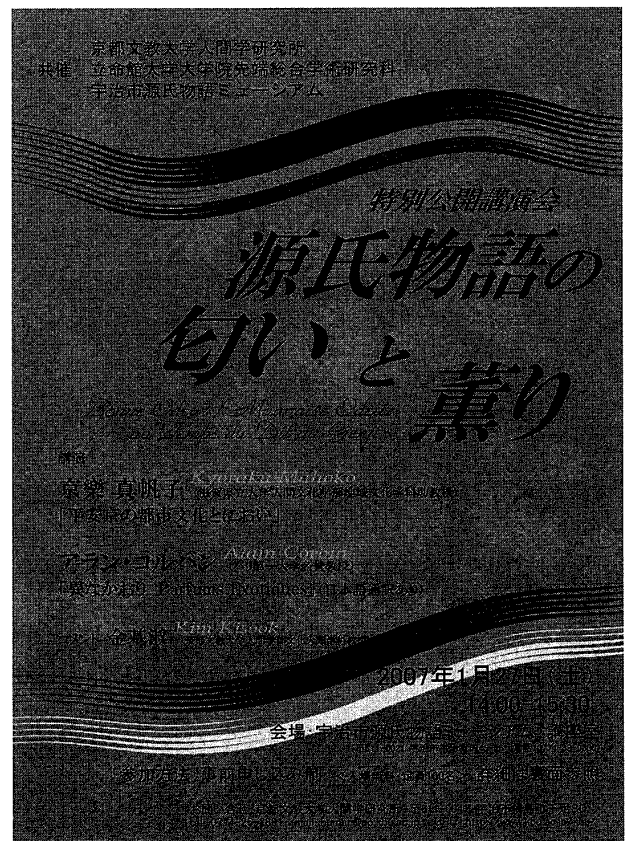
趣旨説明：西川 祐子（京都文教大学人間学研究所所長）

司 会：鵜飼 正樹（京都文教大学人間学部文化人類学科助教授）

鵜飼正樹（司会）：みなさんこんにちは。京都文教大学の鵜飼正樹と申します。本日は特別公開講演会「源氏物語の匂いと薫り」にお越しいただきましてありがとうございます。この会場は椅子席をだして100人ぐらい入るとのことですけれど、本日は150名という多くの方にお越しいただきましたので、机敷というんでしょうか、莫座を敷いたような形で、すこし窮屈な思いをしていただくことになりました。約90分ほどの講演会になりますが、ご辛抱のほど、よろしくお願いいたします。

今回の特別公開講演会は、宇治市源氏物語ミュージアムと、立命館大学大学院先端総合学術研究科、そして京都文教大学人間学研究所、この三者の共催で実施することになりました。

「源氏物語の匂いと薫り」というタイトルがつけられた理由としましては、みなさんもよくご存じかと思いますが、宇治は源氏物語の最後のパートにあたります「宇治十帖」の舞台



1) 滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科助教授

2) パリ第一大学名誉教授

となったところで、その主人公が匂宮と薫という二人の貴公子です。それにちなんで、今回こういった講演会を企画しました。

この宇治市源氏物語ミュージアムの廊下の窓ガラスには、「あみだくじ」みたいな小さなマークがついています。あれは「源氏香」といって、香道、香を当てる遊びで、同じ香りがするものを結ぶと、回答がああいうあみだくじみたいな形になります（図1）。ですから、ここでこういうテーマの公開講演会が開かれるのも、非常にふさわしいのではないかなというふうに思っています。

ではこれから公開講演会を始めるにあたって、各報告者の方の簡単なお紹介をさせていただきます。最初に、京樂真帆子さんに「平安京の都市文化とにおい」と題したお話をいただきます。京樂さんは現在滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科助教授でいらっしゃって、ご専門は日本古代史、とくに平安京の都市社会史、ジェンダー史をご専門になさっています。共著に『都市－前近代都市論の射程－』（青木書店）、『ジェンダーの日本史』（東京大学出版会）といった本をお持ちです。

それから二番目にお話いただくのが、フランスのパリ第一大学名誉教授でいらっしゃいますアラン・コルバンさんです。アラン・コルバンさんには「異なかおり Parfums Exotiques」と題したお話をさせていただきます。コルバンさんは『においの歴史－嗅覚と社会的想像力』（藤原書店）という非常に有名な本の著者です。そ

れ以外にも『娼婦』（藤原書店）などといった著書があり、従来の歴史学の枠組みに収まらない「感性の歴史学者」と言われている方です。今回、立命館大学大学院の特別講義で来日されて、その機会にこちらでもお話をさせていただくという運びとなりました。

それからコメンテーターとして、京都文教大学人間学部文化人類学科教授の金基淑さんにもお話いただきます。金さんは文化人類学がご専門で、インドをフィールドとされています。『アザーンとホラ貝－インド・ベンガル地方の絵語り師の宗教と生活戦略』（明石書店）といった著書をお持ちです。韓国でお生まれになり、日本で文化人類学を勉強されて、インドをフィールドワークの調査地とされています。インドは豊かな香りの文化を持つ国ですので、そういった側面からコメントをいただけるのではないかと思います。

では講演会に先立ちまして、京都文教大学人間学研究所長の西川祐子から、趣旨説明をいたします。

西川祐子：京都文教大学人間学研究所の西川祐子です。みなさまのお手元にも届いたかと思うんですが、ここに本研究所のスタッフの苦心の作である講演会のチラシがあるんですけども、そこに二筋の曲線が描かれております（本稿冒頭の図参照）。何に見えるでしょうか。宇治川の流れにも見えますし、香りや匂いを絵に表すと曲線になるかな、あるいは十二単の重ねのうねりとか、あるいは黒髪の流れかな、あるいは今年はちょうど源氏物語が書かれてから999年ということで、ほぼ一千年の長い歲月、時の流れにも見えるでしょうか。

どう解釈していただいてもいいと思うんですが、今日の話題のなかには、まずコルバンさんは18、19世紀のパリを中心に『においの歴史』という大きなご本をお書きになりました。私はこの本を読みながら、ここに書かれていることはいろんな国の都市、いろんな時代の感性の歴史を考えると役に立つのではないかなと思っております。それからさっき鶴飼さんがおっしゃったんですけども、私も子どものと

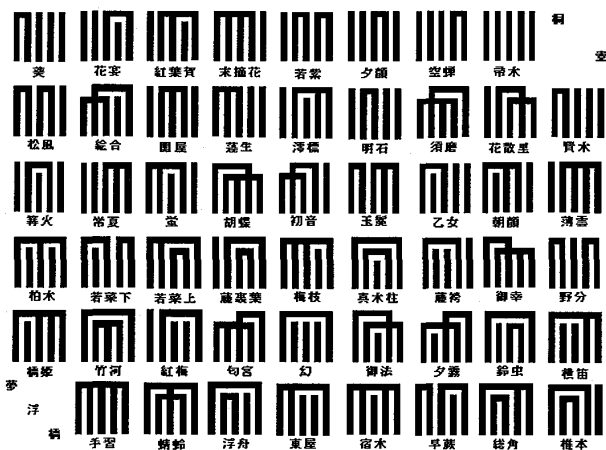


図1